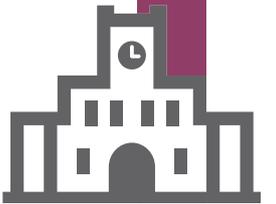


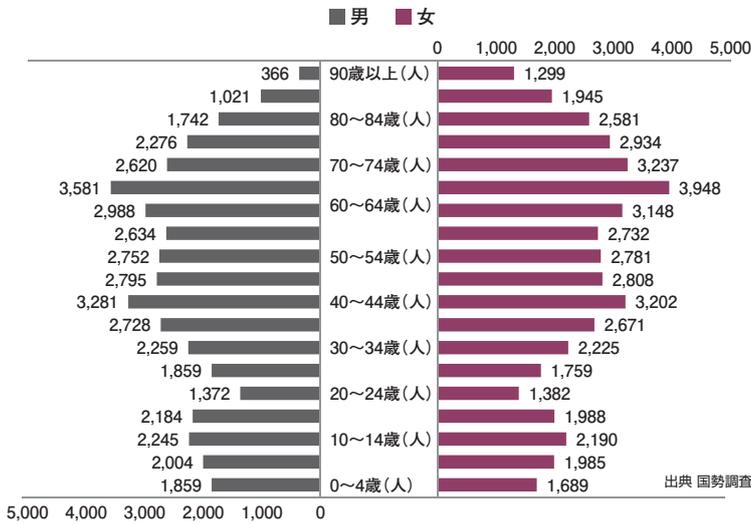
若者が学び活躍できるまちを目指して

飛驒高山 大学連携センターを設立

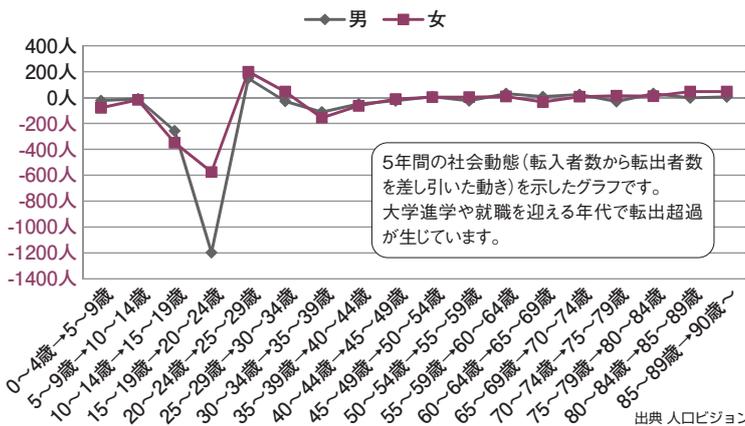


オープニングセレモニーの様子

高山市2015年人口ピラミッド



高山市2005年→2010年 社会動態(転入出)の状況



市内には4年制大学がないことから、高校卒業後の若者の多くが、都市部等の大学へ進学するため、20歳前後の若者が極端に少ない人口構造となっています。こうした状況を踏まえ、市では、これまでも大学の誘致を進めてきましたが、少子高齢化の進展や大学の

また、将来的なUIJターンや地元定着なども視野に入れ、大学が実施するフィールドワークやゼミ合宿、インターシップなどのさまざまな活動を誘致・支援し、多くの大学生が来訪・滞在・活動する高山市を目的とした大学コミッション事業も行います。

市内には4年制大学がないことから、高校卒業後の若者の多くが、都市部等の大学へ進学するため、20歳前後の若者が極端に少ない人口構造となっています。こうした状況を踏まえ、市では、これまでも大学の誘致を進めてきましたが、少子高齢化の進展や大学の

キャンパスの都心回帰などにより、現実的には難しい状況にあります。

このため、平成27年度に策定した「高山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」における柱の一つである「大学連携の推進」を強力に推進するため、今年6月に市から独立した機関として「一般財団法人飛驒高山大学連携センター」を設立しました。

飛驒高山大学連携センターの役割

センターは、大学の保有する高度で専門的な知見を活用し、市の「政策研究活動の充実・強化」「行政課題や地域産業、地域コミュニティ等に関する課題・課題の解決」「地方創生を担う人材の育成・確保」などの自治体シンクタンク事業を行います。

